

福井市のまちを歩いて・見て・知る体験型ツアー  
**stage1 福井の冬の定番スイーツ**  
**水ようかん食べ歩き**

**編集後記**

参加者からは「水ようかんが好きで、食べ比べてみたい」と参加しました。いつもは決まった店のものしか食べないので、店によってこんなに違いがあることにびっくり！福井の町も歩いてみると、ずいぶん住んでいるのに知らないことだらけだあって。また参加したい！「福井の町の歴史がわかって楽しかった」などの声も聞かれました。恥ずかしながら郷土の歴史や土地柄を知らない福井市民の私は、まちあるきの解説に、「へえ」「知らなかった～」の連続でした。水ようかんの奥深さと、店によって別物のような違いにも驚きです。また次も参加したい！  
 次のまちあるきは3月21日の予定だそうです。(M)

**なぜ冬に水ようかん？**

全国的には水ようかんは夏なのに、なぜ福井は冬？  
 「京都への奉公人が福井県土産のようかんに水と黒砂糖を加えた。冬は寒天が固まりやすくおいしく作れた。など、諸説ありませう。昭和3年に先代が市内菓子店に見習いにいったときには、既に作られていたようです」  
 福井県菓子工業組合理事長 江川正典さん

**G・Cook**

1時間半ほどの楽しい散策後は、力作の水ようかんがキレイに固まっています。専用の型押しで切って、まるで市販品！その後、市内11軒の水ようかんを食べ比べ、味の違いを実感。「こんなに違うんだね」「私はここのが好み」など和気あいあいと参加者同士の交流も深まりました。



**福井駅前周辺のあちこち**

昭和初期までは福井城の堀が残されていた。生活排水が堀に流れるように高低をつけた街は、埋め立てられた今でも坂がちらほら。



お堀埋め立ての名残りが...

**村中甘泉堂**

水分少なめのもっちりとした食感。味が濃く、あんの舌触りが感じられる一品。



**足羽山を借景に**

明治時代は、足羽山を借景に足羽川の景色を楽しむ優雅な通りでした。現在はガス灯が設置され、市民の散歩コースとして親しまれています。



**浜町遊歩道**



**9 道路元標**

福井県の道路の基点である。道路元標は九十九橋の橋詰にあります。現在のもは2代目で、明治42年にたてられたもの。



**10 浜町**

車がない時代、物資の大量運搬は「舟」でした。この界隈が船着場だったため、水辺を浜として「浜町」に。現在の中央3丁目界隈。

**8 呉服町**

明治5年の調査では現在の呉服町周辺には210の商店があり、そのうち50余りは呉服屋さんでした。明治の女性は理由がないとなかなか外出できず、子や孫を連れてのお宮参りが格好の外出理由。お参り等を理由に呉服町であれこれと買い物するのが、女性の楽しみだったそう。今は2軒になってしまいました。



女性であふれていた...

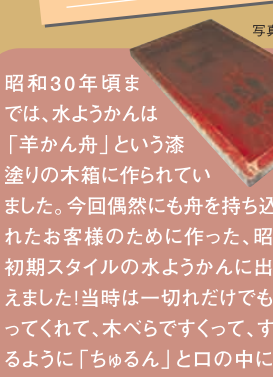
**7 香華堂**

水分はやや少なめで、歯ごたえと口どけがしっかり。厚みがあるため食べ応えあり。



**6 旧長者町**

寂しい町...ではなく、大金持ちが広い敷地を有していたため4軒しか家になかったと言われています。



4軒しか家になかった？

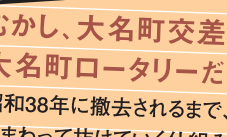
**5 錦梅堂**

黒砂糖の風味が効いたさっぱり味。みずみずしい食感でした。



**4 片町通り**

江戸時代、福井城のお堀の一番西側が片町通りでした。つまり、片側は掘で町がつけられなかったため、「片方だけの町」で「片町」。



片方にしかないから...



**まちあるき START**

**stage1 福井の冬の定番スイーツ**  
**水ようかん**  
**食べ歩き 参加レポート**

福井市の中心市街地は、戦災・震災等で歴史的資産が削減してしまっているといわれていますが、目線を少し変えるだけで、新しい発見に出合えます。「福井市の地域資源や特性を体験・体感する」ツアーの第1回は、冬の定番スイーツ「水ようかん」の食べ歩き。福井市の片町・浜町周辺を散策してきました。 実施日1月24日 企画・実施 福井市 まちあるき 福井市

**1 まずは水ようかん 手作りチャレンジ!**

材料は、あん・砂糖(黒砂糖や白砂糖)・寒天・水といたってシンプル。黒砂糖の配合や、白砂糖の種類、寒天の量、煮詰める時間などで店の個性が出るそう。「甘さを抑えて硬めに仕上げるなら寒天を増やす。甘くて硬めの場合は、煮詰める時間を長くして水分をより多くばし、寒天も増やす」など、味と食感のバランスを教えてもらって、一同「へえっ!」。ガスで上手に火加減しながらゆっくりに混ぜて、おなじみの箱に流し込みました。

**2 福井駅前電車通り**

昭和8年当時は、JR(当時は国鉄)の福井駅は、現在の西口再開発地区あたり(西口アーケード付近)にあり、この通りが国鉄福井駅の正面だった。国鉄への乗り入れで「福井駅前」をつつたそう。

**3 大名町交差点**

むかし、大名町交差点は大名町ロータリーだった!昭和38年に撤去されるまで、時計回りにまわって抜けていく仕組みでした。

交差点、曲がり角の歩道にグリーンの洗剤柱! 電車への電気を供給する電線を渡す「架線柱」。実は、戦時にも震災にも耐えた、強靱な長老さん。今年取り壊してしまう計画があるのだとか...。まだまだ元気を現役さん、がんばって欲しい!

**4 片町通り**

江戸時代、福井城のお堀の一番西側が片町通りでした。つまり、片側は掘で町がつけられなかったため、「片方だけの町」で「片町」。

**stage2・3・4 開催決定!!**  
**参加者募集のお知らせ**

3月21日(日)、テーマ別に3コース開催します。福井のまちを歩いて・見て・知って楽しめよう!  
 各コースとも

申込方法 住所、氏名、年齢、電話番号、参加希望stageを記入の上、2月26日(金)必着までに、はがき FAXまたはメールでお申込みください。抽選の上、参加票をお送りします。

申込先 まちづくり福井株式会社 〒910-0006 福井市中央1丁目4番13号 豊のホール6F TEL:0776-30-0330 FAX:0776-30-0505 e-mail:ftmoin@ftmo.co.jp

**stage2 福井の暮らしを支える青い石「笏谷石」**

内容 福井の身近な石として親しまれてきた笏谷石。現在もまちなかで息づいているこの石をテーマに歴史や魅力の解説を聞きながらまちあるきを楽しみます。

日時 3月21日(日)9:30~12:30  
 コース 豊のホール(集合)→丹波洞、笏谷神社など→福井城址(解散)  
 (途中すまいるバスを利用します)  
 定員 10名 参加費 1,000円(保険料込)

**stage3 越前福井と龍馬~文久3年~**

内容 龍馬の文久3年(1863)の来福に焦点をあて、越前福井と龍馬のつながりを知るまちあるきです。(龍馬は文久2年(1862)、松平春嶽の紹介を受け勝海舟に面会し、その弟子となりました。海舟が推し進める神戸海軍操練所の海軍監寄宿舍設立の援助を得るため福井を訪れた龍馬は、横井小楠、三岡八郎、村田氏寿らに会いました)

日時 3月21日(日)10:00~13:00  
 コース 福井神社(集合)→福井城址→佐佐木商店→横井小楠宅跡→三岡八郎宅跡→佐々木栄生家跡→橋本左内墓跡→寛屋旅館跡→吉田鮮魚店(昼食・解散)  
 定員 30名(10名×3班予定) 参加費 2,000円(昼食、保険料込)

**stage4 越前福井と龍馬~慶応3年~**

内容 龍馬の慶応3年(1867)の来福に焦点をあて、越前福井と龍馬のつながりを知るまちあるきです。(龍馬は慶応3年、三岡八郎と面談するために福井を訪れました。その後福井を出て2週間後、龍馬は京都近江屋で中岡慎太郎と共に暗殺されました)

日時 3月21日(日)13:30~16:00  
 コース 寛屋旅館跡→横井小楠宅跡→三岡八郎宅跡→佐々木栄生家跡→村田氏寿の墓(参拝寺) ※集合場所は後日ハガキでご連絡いたします。  
 定員 30名(10名×3班予定) 参加費 500円(保険料込)